

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2006～2009
課題番号：18251016
研究課題名（和文） 南アジア地域における消費社会化と都市空間の変容に関する文化人類学的研究
研究課題名（英文） A Cultural Anthropological Study of the Commercialization and Transformation of Urban Space in South Asia
研究代表者
三尾 稔 (MIO MINORU)
国立民族学博物館・研究戦略センター・准教授
研究者番号：50242029

研究分野：文化人類学・南アジア研究
科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学
キーワード：(1)文化人類学、(2)南アジア研究、(3)都市研究

1. 研究計画の概要

1990年代以降のグローバル化の進展や急速な経済発展を背景に著しい変貌を遂げている南アジアの都市の社会的文化的基層構造とその変容の方向性の解明を目指す。文化人類学を中心に、人文地理学、歴史学、建築学などの関連諸分野の研究者をも連携研究者や研究協力者としてメンバーに加え、現地での住み込み調査に基づいた実証的な調査を重ね、多角的な観点から南アジアの都市の特性やその変容の動態を総合的に捉える。

実証的な調査を3年間継続し、その成果を逐次論文や学会発表等によって公開するとともに、国立民族学博物館共同研究「南アジアの都市の人類学的研究」を活用して、メンバー間で知見を共有し、最終的な成果公開を目指す。

2. 研究の進捗状況

文化人類学的な住み込み調査を3年間継続してきた。調査を行った都市は、インドのデリー、チャンディーガル、アジメール、ジャイプル、ウダイプル、アフマダーバード、ブーージ、ムンバイ、プネー、バラナシー、コルカタ、バンガロール、マイソール、チェンナイ；パキスタンのラーホール；バングラデシュのダッカ、チッタゴン；ネパールのカトマンドゥ；スリランカのコロンボ、キャンディなどであり、南アジアの主要都市をほぼ網羅している。また研究成果の共有と論点整理のために活用している国立民族学博物館の共同研究「南アジアの都市の人類学的研究」は同じ3年間に計9回開催している。

これらの調査と研究成果の検討の結果、以下の諸点が明らかとなってきた。

都市の社会的文化的基層構造の解明においては、イスラームの都市文明の影響の深浅に応じて、北部南アジアではモハッラーと呼ばれる街区を基盤とした都市近隣社会が形成されるのに対して南部南アジアではそのような基盤構造が見られず、より散逸的・離散的な都市社会が形成されるという、対照的な地域性が実証的に明らかにされている。また、各都市の社会的文化的特性は、その都市を権力基盤の中心としてきた政治権力や王権、あるいはその都市を含む地域でドミナントな宗教文化との密接な関連のもとに育まれてきたことも確認されている。

一方、1970年代頃から発達が顕著に見られる各都市の郊外に形成されている社会やそれを基盤とした文化においては、地域性よりも斉一性が顕著である一方、近隣の社会関係を基礎としたローカリティの形成が見えにくくなりつつある。90年代以降の各地でのナショナリズムの興隆や宗教伝統への回帰と見られる運動は、都市郊外におけるローカリティの再構築への動きと密接に関連していることが、各地での調査から明らかにされつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究代表者、研究分担者をはじめとして、連携研究者、研究協力者が毎年度10名程度長期現地調査を実施し、その研究成果が論文や学会発表で活発に公表されている。

インドのみならず南アジア各国の主要都市も調査対象としている上、インドで調査した都市は地域的にもバランスが取れ、また大

都市や王都、宗教都市、地方都市など様々であり、総合的な南アジア都市研究が進展している。また、北インドの代表的な宗教都市でもあり、経済の中心でもあるバラーナシーでは複数の文化人類学者や建築学者が協力して調査を行うなど、学際的な調査も実施されている。

公表された論文は 50 件あまりを数え、そのうち 3 割は英語や現地語で発表されており、国際的な成果発信という面でも十分な成果を上げている。

4. 今後の研究の推進方策

国立民族学博物館共同研究「南アジアの都市の人類学的研究」を活用してこれまでの調査成果を発表し、メンバー間での討論を深め南アジアの都市の基層と変容に関する知見の総合化と深化を図る。

この成果は、成果報告論文集にまとめる他、来年度に上記共同研究の成果公開の一環として計画している国際シンポジウムに反映させ、成果を広く国際的な研究者コミュニティにまで公開する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 3 件)

- ① Minoru Mio. 2009, “Young Men’s Public Activities and Hindu Nationalism: Naviyuvak Mandals and the Sangh Parivar in a Western Indian Town.” 査読無 in David Gellner(ed.) *Ethnic Activism and Civil Society in South Asia*. (Sage Publication) pp. 25-56
- ② Yoshio Sugimoto. 2008, “Boys Be Ambitious’: Popular Theatre, Popular Cinema and Tamil Nationalism.” 査読有 in Terada Yoshitaka(ed.) *Music and Society in South Asia: Perspectives from Japan*. pp. 229-240

[学会発表] (計 2 2 件)

- ① Isumi, Morimoto. 2008年8月14日 “The Impact of Global Tourism on the Gandharbas in Nepal.” The 31st International Geographic Conference. (The Karam Palace, Tunis, Tunisia)
- ② 小牧幸代 2008年5月31日「拡散するイスラームの聖遺物と聖地～あるいは分有された預言者の身体～」日本文化人類学会第42回研究大会(京都府、京都大学)
- ③ 外川昌彦 2007年6月2日 「<表象>と<代表>のはざまーバングラデシュのある聖者廟をめぐる『開発』と『人類学』」日本文化人類学会第41回研究大会(愛知

県、名古屋大学)

[図書] (計 4 件)

- ① 三尾 稔・金谷美和・中谷純江 2008 『インド刺繍布のきらめきーバシン・コレクションに見る手仕事の世界』(昭和堂) 総頁数 125 頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

新聞掲載情報

- ① 三尾 稔 『“万華鏡”の魅力 講演会「激動するインド世界」を前に』 毎日新聞(夕刊) 2009年2月13日(金) 掲載
- ② 三尾 稔・杉本良男・寺田吉孝 『みんなく公開講演会 激動するインド世界一人々の暮らしから読みとく』 毎日新聞(朝刊) 2009年4月3日(金) 掲載

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18251016.html>